

『1980～1996年製造 EB 電源内部に使用されているオイルコンデンサへの微量 PCB 混入の可能性について』

株式会社 アルバック
規格品事業部

2016/5/13
お客様各位

拝啓

貴社いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、1980～1996年に製造された真空管式EB電源（HPシリーズ）において、内部に搭載されているオイルコンデンサに微量PCBが混入している可能性が否定できないことが判明しました。下記をご確認いただき、電源の廃棄処理の際には適切に処理していただけますようお願いいたします。

敬具

記

1. 微量 PCB 混入の可能性について

真空管式 EB 電源 HP-1010F、1010SG 及び HP-1610F の販売期間は 1980 年～1996 年であり、PCB の製造が禁止された 1972 年以降に製造されたものです。よってこれら電源には意図的に PCB を添加した部品は使用されておりません。しかし、これら電源のほとんどに搭載されているオイルコンデンサは、(社)日本電機工業会が微量 PCB の混入が否定できないとの見解を示している“1989 年以前に製造されたもの”に該当します。さらに、“1990 年以降に製造されたもの”であっても、オイルコンデンサの種類によってはメーカーの廃業などにより微量 PCB 非含有の確認がとれないものもあります。

したがって 1980 年～1996 年に製造された真空管式 EB 電源 HP-1010F、1010SG 及び HP-1610F の全てにおいて、微量な PCB が混入しているオイルコンデンサを使用している可能性があります。

※オイルコンデンサは数種類のものを使用しています。形状はほぼ同じですが、この製造会社がマルコン電子で、かつ製造年月日が 1990 年以降のものであれば、微量 PCB の混入はないとの見解がマルコン電子（現：日本ケミコン株式会社）より示されております。オイルコンデンサの銘板をご確認ください。この場合以外では、確認がとれていませんので含有検査が必要となります。

2. 真空管式 EB 電源の取り扱いについて

真空管式 EB 電源 HP-1010F、1010SG 及び HP-1610F を所有しているお客様におかれましては、オイルコンデンサの製造会社と製造年月日の確認をお願いします。その結果、製造年月日が 1989 年以前、または 1990 年以降であっても製造会社が旧マルコン電子以外である場合、微量 PCB が混入している可能性が否定できないものとなりますので、電源廃棄時にオイルコンデンサ中の PCB 含有濃度検査の実施をお願いいたします。

含有濃度検査により低濃度 PCB 廃棄物（含有濃度 0.5mg/kg 以上）と判定された場合は、「PCB 廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「電気事業法」に基づいて適切な処理をお願いいたします。

現在稼働中の電源についてはそのままご使用いただけますが、低濃度 PCB 含有廃棄物の処理期限は平成 39 年 3 月 31 日となっておりますので、それまでに含有検査を実施し適切に廃棄をお願いいたします。尚、含有検査はコンデンサからの抜油を行いますので、仮に微量 PCB が検出されなかったとしても再利用はできません。計画的に使用を停止し、含有検査の実施をお願いいたします。

PCB を含む電気機器への対応について、(社)日本電機工業会の HP にわかりやすい解説がありますので、そちらもご参照ください。

(社)日本電機工業会 『PCB を含む電気機器への対応情報』

<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/pcb/>

3. オイルコンデンサの搭載位置について

該当のオイルコンデンサの外観は写真 1 を参照ください。おおよその寸法は 242W×92D×150H(電極部+約 120mm)で、重量は約 5 kg です。搭載位置はそれぞれの電源によって異なりますので、図 1 を参照ください。



写真1 オイルコンデンサ外観例

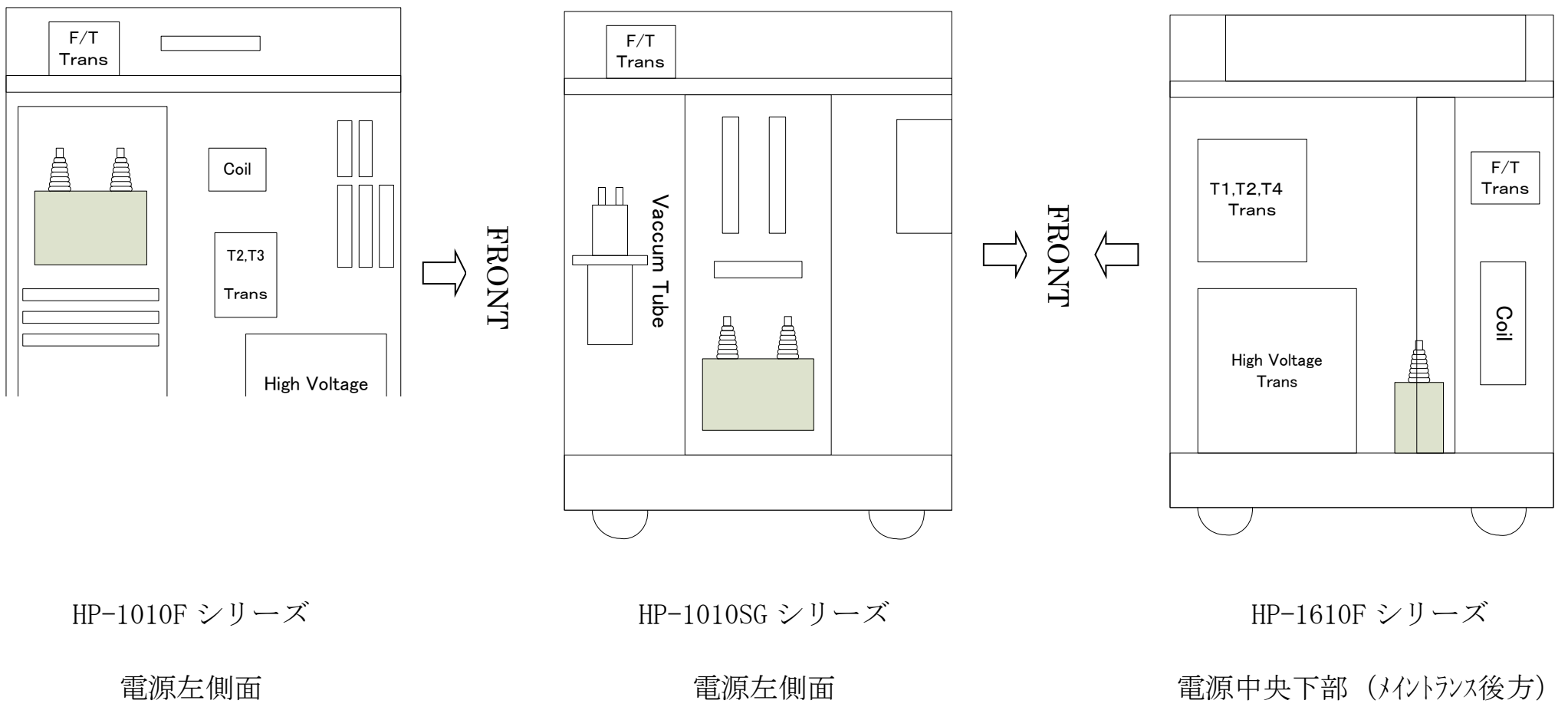


図1 オイルコンデンサの取付位置

以上